

臨池

題字／平尾孤往先生書



6

2018 [No. 792]

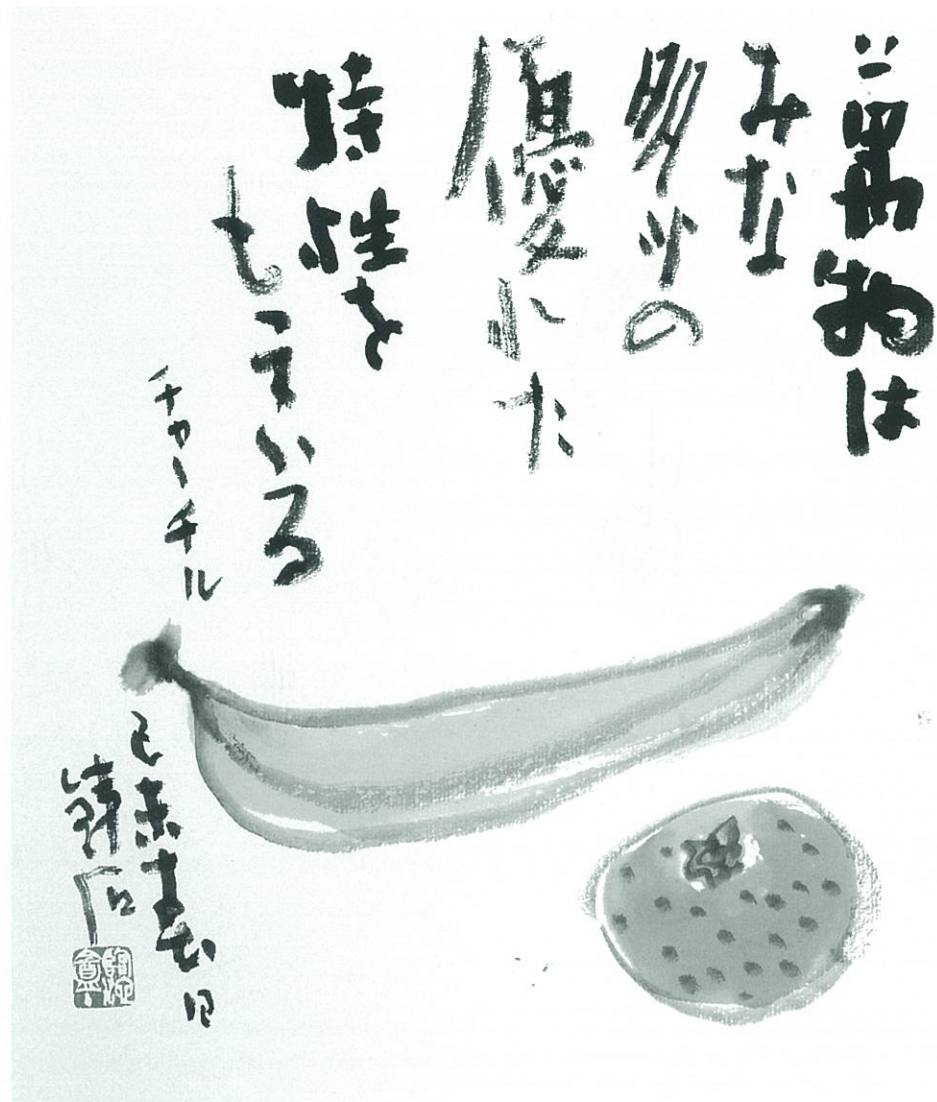
月刊書道誌 臨池



私たちは「日本の書道文化」の
ユネスコ無形文化遺産登録を
応援しています。

ようこそようこそ

吉澤鐵石色紙墨戲百選



26 萬物はみな多少の優れた特性を持っている
(チャール)



27 長短、大小、太細、甘淡、それぞれに

平成三十年第四十五回 日本の書展茨城展

●平成三十年四月十四日(土)～四月十九日(木)
●茨城県民文化センター(敬称略)

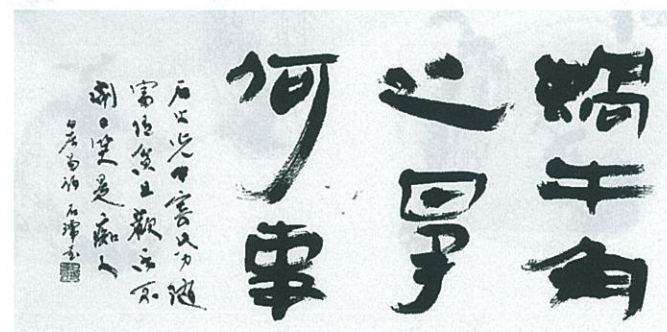
茨城書道美術振興会役員

〈茨城書壇招待作家展〉

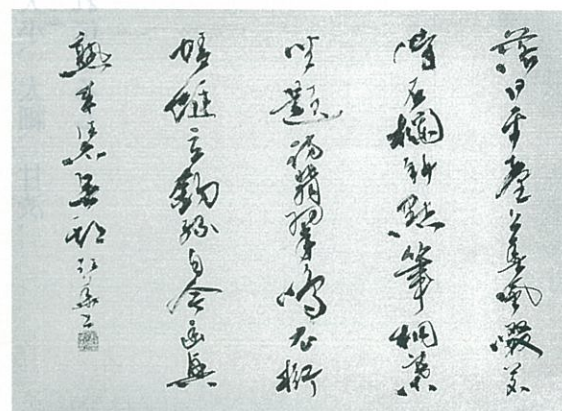
〈現代書壇巨匠選〉



茨城書道美術振興会名誉顧問 星 弘道先生



副理事長 吉澤 石琥



常任理事 小野 江華

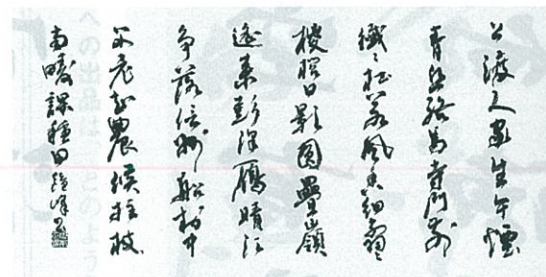
〈茨城書壇代表作家展〉



理事 笠嶋 華蕙



理事 窪山 墨翠



理事 根本 鐘峰



理事 吉澤 衡石

〈茨城書壇選抜展〉



理事 綿引 慈翠



'18 奨励賞 西野 香葉

条幅参考

(五言絶句)

吉澤石琥書

雜詩二首其二 (明) 邊貢

江靜無飛鳥 亭空有落花
主人何所在 沽酒向漁家

江靜にして飛鳥なく
主人何くにある所ぞ

亭空しくして落花あり
酒を沽いて漁家に向かう

・江邊の眺めで、静かにして飛鳥の影さえ見えない。
・江邊の一亭には誰もおらず庭には落花があるのみ。
・主人の姿も見えない。
・その人は酒をかって漁家に行ったのであろう。

○石琥書

江靜無飛鳥 亭空有落花
主人何所在 沽酒向漁家

楷書

○石琥書

江靜無飛鳥 亭空有落花
主人何所在 沽酒向漁家

行草体

○石琥書

江靜無飛鳥 亭空有落花
主人何所在 沽酒向漁家

※「調和体」は漢字条幅部として出品願います。

※漢字条幅部への出品は、どのような作品でも出品可能です(かな以外は)

かな条幅参考

(師範部―師範、師範格・A部―準師範、七段)
(B部―六段、初段・C部―1級、新人)

吉澤劉石書

野べごとにおとづれわたる秋風をあだにもなびく花薄かな

野べごとにおとづれわたる秋風をあだにもなびく花薄かな

(出典 日本古典文学全集 新古今和歌集)

※出品券を貼り、更に作品ウラ側へ鉛筆で各部・必ず段級・姓号を書いて下さい。

(随意部には出品できません。)

隷書

良 神 良 神
暗 舒 暗 舒
心 心 心 心

(北魏風楷書)

・規定部に前頁とこの作と二枚は出品できません。
どちらか一枚を規定部に出品して下さい。

行書

良 神 良 神
暗 舒 暗 舒
心 心 心 心

吉澤石琥書

草書

※規定・随意・余幅部の段級は共通です。
※随意部には一枚しか出品できません。

良 神 心 舒
りようしんしんのぶ
(王機申) 友人などとの佳き面会は心情精神がのびのびする。

良 神
暗 舒
心 心

吉澤石琥書

※作品は一人一点出品です。楷書以外のものは規定と認めません。
※出品券は「幼・学生・規定」の出品券にて出品して下さい。
※作品には必ず落款(号か名のこと)を書いて下さい。

和年歳癸丑暮會稽陰蘭
※筆の入る方向を見て下さい。こちらが大切です。

永和九年歲在癸丑暮春之初
會于會稽山陰之蘭亭。

王羲之 蘭亭叙

永和九年。歲在癸丑。暮春之初。會于會稽山陰之蘭亭。

柳結濃陰

行書

柳結濃陰

草書

吉澤石琥書

柳結濃陰 (黄淮) 柳の枝が茂り、濃い木陰をつくっている。

柳結濃陰

楷書

吉澤石琥書

※作品は一人一点出品です。楷書以外のものは規定と認めません。
※出品券は「幼・学生・規定」の出品券にて出品して下さい。
※作品には必ず落款（号か名のこと）を書いて下さい。
※本誌入手前に出書される方は、出品券に前月号の級を記入し、脇に「調」と朱書きして下さい。



即歸國。臣伏

歸

史晨碑は、後漢の靈帝の時、建寧二年（一六九）三月の記年がある。碑額はなく、両面に刻し、碑陽を「魯相史晨祠孔子廟碑」、略して史晨前碑、碑陰を「魯相史晨饗孔子廟碑」、略して史晨後碑と呼んでいる。一三・一×一・二二cm。碑陽は一七行、行ごとに三六字、碑陰は一四行、行ごとに三六字である。山東省曲阜市の孔子廟東廡にある。

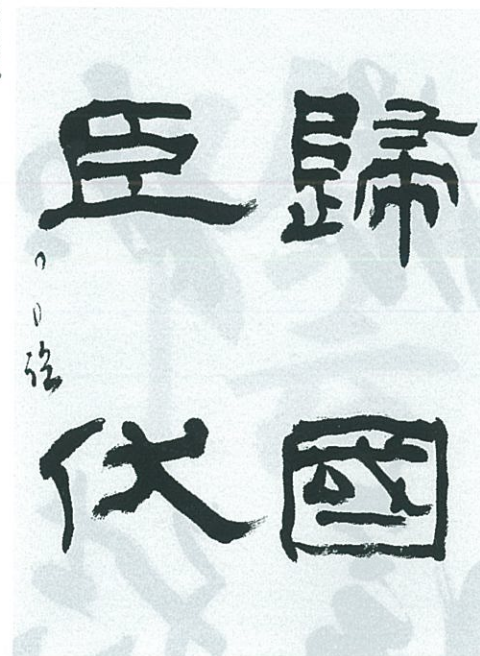
前碑は、建寧二年三月七日に、魯相の史晨が時の尚書に奏請した文書である。そして最後に三行の孔子を讃える銘が繋いである。その上奏文は、まず前年に相として着任し、秋饗の礼を行い津宮（学校）で飲食したが、公費で酒肉を出し祭祀することができなかったため、自分の俸給を用いて供物等をととのえて、気持ちを表わしたことを述べる。次いでそれを受け、孔子の生まれた魯国であるのに、公費で祭祀がしつかり行われていない事を嘆く。それで、国家の穀物を出して供物とし、春秋の祭祀を行い、余った肉は先生や執事に与えていたきたいと奏上している。

転折

転折とは楷書の用語を借りたもので、横画と縦画が連結する部分の筆法です。横画の終筆でいったん筆を抜き、縦画をあらためて逆入で書きます。それぞれの画を結合させるような形で書きましょう。



一、この史晨前後碑の書は、極めて端正であるが、割合に淡泊で、素朴なタッチといえよう。
一、沈みのある古意と、線の深さが、この碑の特色で、平淡な風趣の中に、呼吸の長い静まりかえった書である。
一、八分にしても、特に力強く力んだ風もなく、波法も重厚で派手ではなく、引き緊った線は、弾力性に富んでいるが、藏鋒の手法を用いたようにみえる。



吉澤石曉臨

※この内より半紙に自由に字句選出し出品して下さい。※今月の随意部には出品しないで下さい。



生於白刃。素概

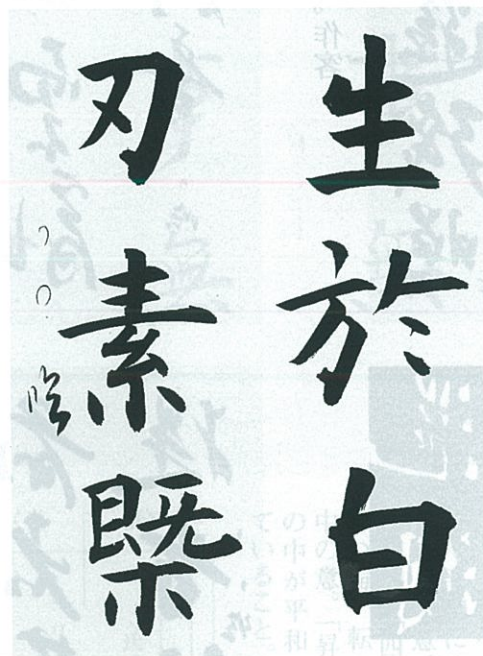
生既

〈特徴と構造〉

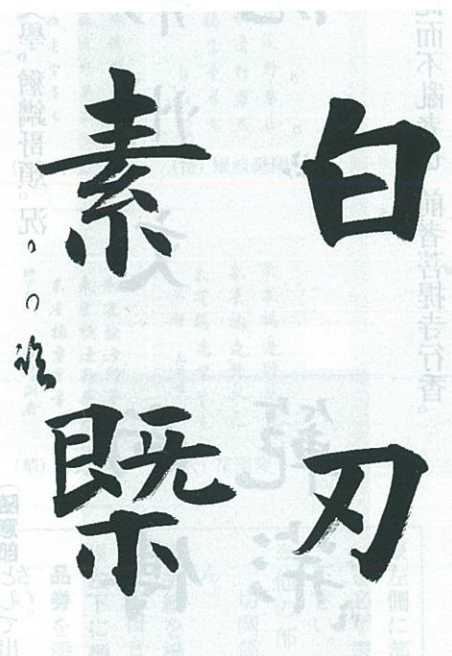
- 一、字形は正方形に近い扁平で、重心を低く保っている。
- 一、虞の円、欧の方の中庸といわれているが、線は欧陽詢の鋭利な厳しさがあり、形は虞世南の遠勢と円味のあるスタイルを扁平にしたような構え方である。
- 一、しかしこの書が、力強く見えて角張った感じのするのは、線より受けるもので、形はよく見ると、ふっくらとした気分で、懐を広くしている。
- 一、起筆の筆の入る角度は普通四十五度に近いものが多いが、この孟法師碑は五十度から七十度ぐらいいに、いや直角に近くみえる起筆も、随所に見ることができる。
- 一、線はやや太目であるが、さらつとしており、はね出した筆勢を次の筆、素直に受けとめて停滞しないで書いているので練習に当っては筆力を養いやすいと考える。
- 一、全体として「洗練された美しさ」というよりは、素朴で力強い感じを受ける。
- 一、右払いの最後の払い、短く力強い。
- 一、隸書的な用筆法が混じっている（特に、左払いと横画から縦画への転折の部分に多く見られる）。

〈参考図書〉

二玄社 中国法書ガイド
天来書院 テキストシリーズ
マール社 書聖名品選集



吉澤石曉臨



※この内より半紙に自由に字句選出し出品して下さい。※今月の随意部には出品しないで下さい。

古典条幅参考 (372)

(条幅部に出品できます)

吉澤石琥臨

唐・虞世南・孔子廟堂碑

賢。尙傳風範。荊州文學。猶鐫哥頌。況

(随意部として出品できます)

賢尚傳風範
荊州文學
猶鐫哥頌
況

尚傳風
範荊州

唐・顔真卿・争坐位文稿

未有行此而不理。廢此而不亂者也。前者菩提寺行香。

未有此而不理廢此而不
名也前名善提寺行音

前名善提者行

条幅のすすめ (102)

オウ タク
(王鐸)

吉澤 衡石 臨

(寧樂堂選集)

茗來。瀟湖寧少遜。殘照莫西催。久勞於外。作客

茗來滬湖寧少遜殘照
暮西催人勞於外作客

西催 遥湖

細字部課題

六月三十日 切

吉澤石琥書

四海昇平一事無
(柯九思)

四海昇平 一事無し

四	四	四
部		
海	海	海
昇	昇	昇
平	平	平
氏		
一	一	一
事	事	事
無	無	無
名		

〔大意〕 天下すべて何事もなく平和に治まっている、の意。天下太平な様。「四海」は四方の海、転じて世界中の意。「昇平」は世の中が平和で治まっていること。

※左側に部門・氏名

下さい。

※他の部の級とは一切関係ありません。

※半紙を横半分に切り縦書きの事。

※左下に細字部の出品券を添付して下さい。

四月三十日 切

朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花

(優)大島登世

朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花

(地)大場聖純

朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花
優位 田邊蒲洞

朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花
雪部 千葉要子

朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花

(優)古渡祥子

(雪)牛島真理

(特)雉波繼陽

朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花
月靜神永葵

朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花
天都 花園隆一

朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花
朱雀橋邊野草花

(華)海野潮香

〈半 | 紙〉

氏
名

品券

キ
リ
ト
リ

※出品券を貼り、更に作品ウラ側へ鉛筆で段級姓号を必ず書いて下さい。

かな部規定課題 (師範～新入)

6月30日ㄨ切

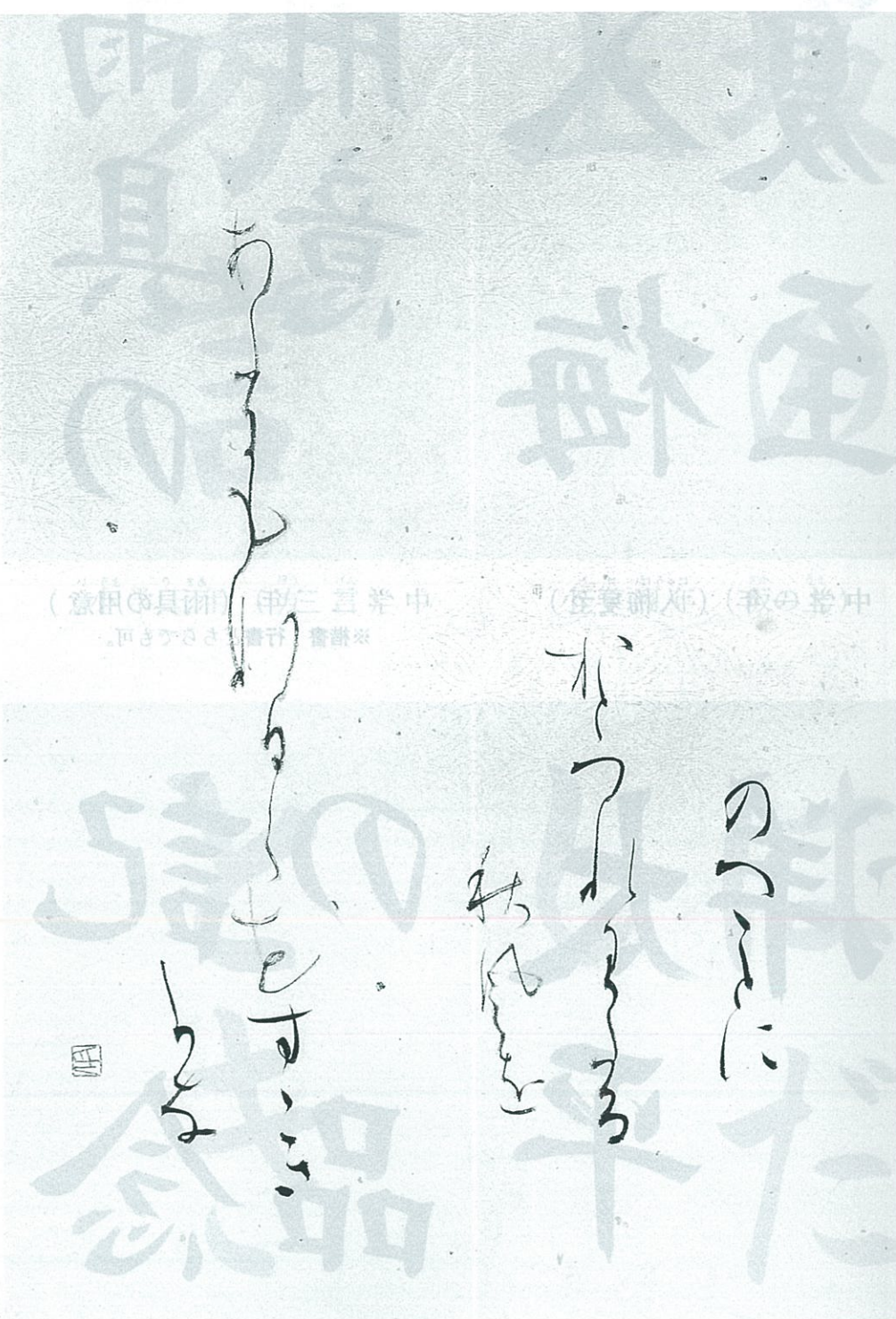
次号課題

明けぬとて野べより山に入る鹿のあと吹き送る秋の下風

左衛門督通光

(出典) 日本古典文学全集 新古今和歌集

野べごとにおとづれわたる秋風をあだにもなびく花薄かな



吉澤 劉石書

※仮名部の段級は漢字部とは別です。
※漢字変換、ちらし、字体は自由です。
※本誌入手前に出書される方は、出品券に前月号の級を記入し、脇に「調」と朱書きして下さい。

吉澤劉石の仮名手本を希望の方は左記に申し込んで下さい。
※TELは不可
〒502-0931 岐阜市則武一七八 吉澤劉石臨池係

調和体課題 (師範～新入)

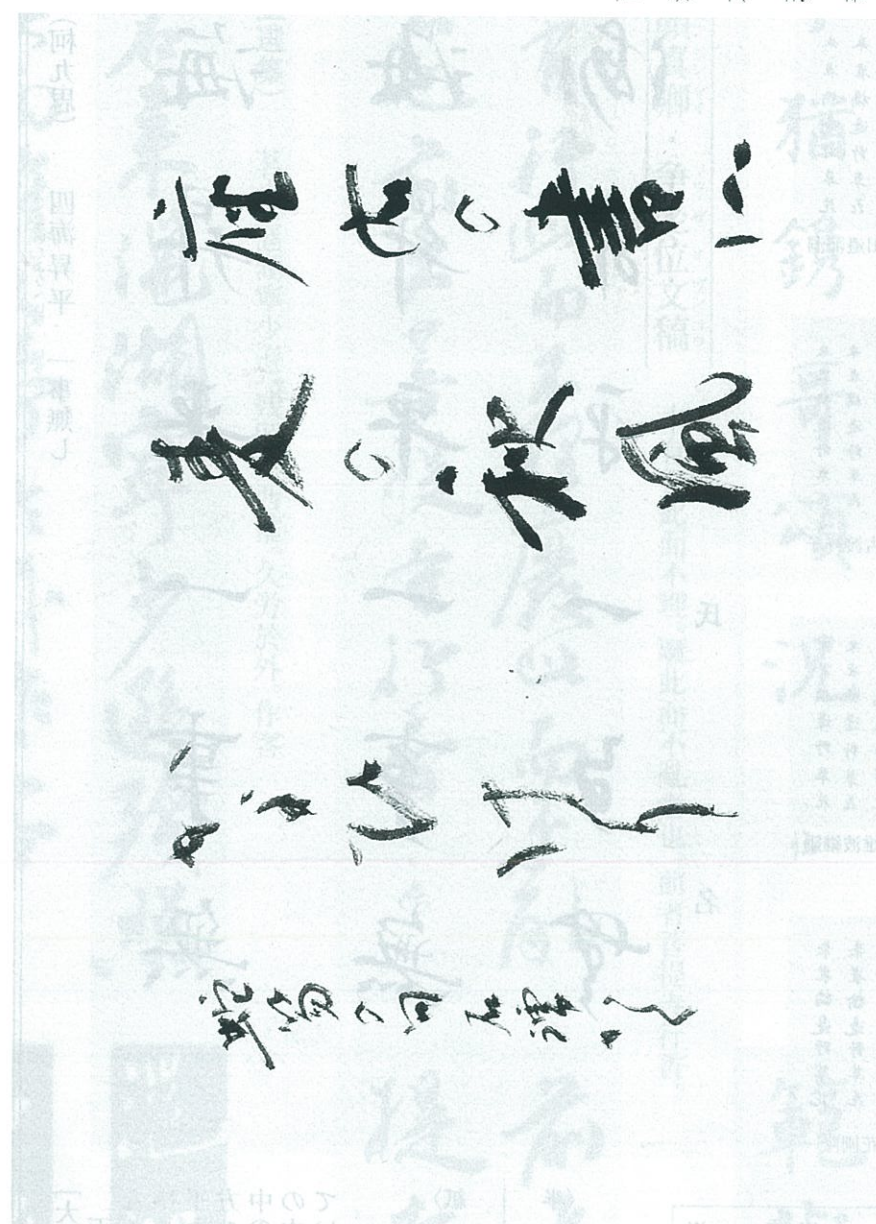
(師範～新入)

六月三十日ㄨ切

座右の書に麦の秋風がよひけり

飯田蛇笏

吉澤 石曉書



●紙文は引用した文献の原文通りとしました。
●但し、参考作品内の漢字に關しては作品効果を考え、新旧の漢字を使い分けております。
(出典) 三六五日の歳時記 上・下 PHP 夏生一曉 編著

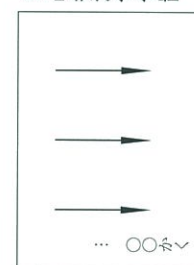
※作品は一人一点出品です。篆書・隷書は使わず可読性を重視して下さい。

※作品は半紙サイズにて。

※作品には必ず落款(号か名のこと)を書いて下さい。

※出品券は「調和体」の出品券を左図の様に添付して下さい。

出品券添付位置



出品券

雨具の
用意
入梅
夏至

中学一年（入梅夏至）

中学二三年（雨具の用意）
※楷書・行書どちらでも可。

記念
の品
太平洋
洋

小学五年（太平洋）

小学六年（記念の品）

坂上の
方言

小学三年（方言）

小学四年（坂の上）

はだし
とき

小学一年（とき）

小学二年（はだし）

○幼児部五月号は「メ」です。
※作品には、支部名（地名）、段級位、氏名をはっきり書いて下さい。書いてない作品は写真版になりません。（幼、一、二年は名前だけでもよろしいです。）
尚、学年は書く必要はありません。作品に段級は全て漢数字で、出品券には成績名簿同様の漢数字、算用数字にて書いて下さい。（選文、梶山翔鶴）

あじし

臨池会ペン字用箋 (A)

ごま かま
り か
の ぬり
が ま

臨池会ペン字用箋 (A)

は この
白 く
の ぬり
が ま

臨池会ペン字用箋 (A)

ア ラ ビ ア
油 田 が 多
所 は い 場

臨池会ペン字用箋 (A)

梅 く
雨 は
入 リ
の
日 が
続 く

臨池会ペン字用箋 (A)

(幼 年)

(小1年)

(小2年)

(小3年)

(小4年)

◆硬筆部の段級は毛筆部とは別です。
◆一般部 イシクが黒のボールペン、つけペンを使用のこと。鉛筆は不可
◆学生部 鉛筆(4B等)・書き方ペン・ボールペンを使用のこと。

(小5年)

遠く 変わ
は ら
な な
れ い
友
情 も

臨池会ペン字用箋 (A)

(小6年)

先 生 の
て 理 解
明 は
説 解
単 い

臨池会ペン字用箋 (A)

(中学年)

背に腹は代えられぬ
驕る平家久しからず

臨池会ペン字用箋 (B)

(一般部)

野べいもとへふわたる秋風を
あだにもずはく花薄はす八条院ふ条

臨池会ペン字用箋 (B)

◆用紙は本会制定用箋(A)・(B)使用のこと。
五十枚綴り、一冊一〇〇円(送料別)
お支払いは現金か郵便振替でお願いし
ます。
◆注文の際は(A)・(B)を明確にして、電話・
葉書・FAXなどをお願いします。

ペン字用箋の送料

通信販売は5冊以上からの
注文。全国一律です

5・6冊 270円

7～24冊 360円

25冊以上

関東・南東北・中部・
信越・北陸 880円

北東北・関西 980円

中国・四国 1,200円

北海道・九州・沖縄 1,280円

野べいもとへふわたる秋風をあだにもずはく花薄かな
八条院ふ条
あだにもずはく花薄はす八条院ふ条

背に腹は代えられぬ 大事なことは、他のことを犠牲にするのはやむを得ないということです。
驕る平家久しからず 思い上がつた振る舞いをする者は長く来えることはなく、いずれ滅びるといったえ。

臨書部

成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享
 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享
 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享
 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享
 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享

(準) 落合三千 (準) 神波雅遊 (格) 津浦則子 (格) 吉村影処 (師) 井坂孔燎 (師) 小池松峰 (師) 平野冬花 (師) 木村白峰
 (初) 菅原洋一 (準) 武井春香 (格) 大賀彩華 (格) 奥山 賢 (師) 関角小慧 (師) 関 惠華 (師) 中島由美
 (準) 安藤華泉 (準) 塩田多磨 (格) 鈴木博苑 (格) 伊藤寿子 (師) 小和霜咲 (師) 榎正悟 (師) 勢子涼香 (師) 田邊蒲洞
 (準) 鈴木仁寿 (準) 山本青樹 (格) 木村眞智 (格) 岩堀石嶺 (師) 岩崎光雪 (師) 岡野趙洋 (師) 玉津啓園 (師) 黒澤芳穂

臨書部

成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享
 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享
 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享
 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享
 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享 成世享

(D) 千葉要子 (D) 海老澤智 (C) 佐藤伸子 (C) 鈴木富子 (B) 中山祥二 (B) 林 薫 (A) 五来緑波 (A) 後藤幸子
 (D) 大高とみ (D) 渡辺紀子 (C) 西井京子 (C) 小沼恵梨 (B) 武田照子 (B) 川崎陽子 (A) 奈良静琴 (A) 中津瑠湖
 (D) 富吉ちよ (D) 小糸啓子 (C) 小林希愛 (C) 秋坂公子 (B) 人見亨香 (B) 横須賀亜 (A) 大内瑠稀
 (D) 黒澤ひろ (D) 大木政子 (C) 菊池のり (C) 大林紀美 (B) 打越信久 (B) 坏 順子 (A) 小田倉多 (A) 中川幸子

調和体部・かな部

調和体部・かな部
 調和体部・かな部
 調和体部・かな部
 調和体部・かな部
 調和体部・かな部
 調和体部・かな部
 調和体部・かな部
 調和体部・かな部
 調和体部・かな部
 調和体部・かな部

(二) 桑原春嶺 (八) 深作順風 (格) 川田恵芳 (師) 笹井鋒水 関 行秀 島田青霞 田邊蒲洞 木村白峰
 (初) 柳生真季 (七) 宮田忠幸 (格) 岩堀石嶺 (師) 栗原由紀 瓜生桃扇 藤本美佳 石川悠石 六嘉順子
 (1) 成瀬千加 (五) 磯崎冬華 (準) 飛田京風 (師) 飯野幽泉 平野冬花 畑 幸治 岡野趙洋 小林太煌
 (1) 山口彌生 (三) 池田竹風 (十) 松井敬子 (格) 山本寿史 吉野佳葉 篠原恵雲 矢野鼓雪 山岸白道

かな条幅部

かな条幅部
 かな条幅部
 かな条幅部
 かな条幅部
 かな条幅部
 かな条幅部
 かな条幅部
 かな条幅部
 かな条幅部
 かな条幅部

(B部) 伊藤寿子 (A部) 深作順風 (A部) 奈良静琴 (師部) 宮本香逢 (師部) 笹井鋒水 (師部) 八木枝扇

次代背 次代背
負う 負う
光特待 高信 未羽
桜特待 高田綾菜

吉野の 吉野の
桜の 桜の
菅谷 準特 吉澤 いろは
船場九 段小幡 乃彩

耳と 耳と
金野 隼大
十江 五段
光四 吉川 紬子

いし 二
初 二にいすず
なみ

向体 向体
上位 上位
十江 準特 佐東直哉
菅谷十 会沢 望子

赤十 赤十
一柳 九段
稲葉 菜月
杏七 山岡 みよ

土手 ざが
菅谷 四 吉澤 拓人
えびざわ りょうすけ

其所 其所
菅間中二 渡邊 光晟
光中三 中根穂乃花

次代背 次代背
負う 負う
神宿特待 林藤 祐樹
光特待 長島 史奈
次代背 次代背
負う 負う
光特待 大金 咲良
十江 準特 川井 由莉
次代背 次代背
負う 負う
菅谷 六 桑原 彩夏
一和七 高崎 知寿
次代背 次代背
負う 負う
水戸 七段 石橋 未希
次代背 次代背
負う 負う
明三 段 古田 幸希
向体 向体
上位 上位
星雲 七段 沖 十鶴
好七 段 鴨之田 暖香
向体 向体
上位 上位
光五 晒名 ゆきの
向体 向体
上位 上位
肥田 愛未 璃
山内 優
本田 陵雅
晒名 ゆきの

吉野の 吉野の
桜の 桜の
品川 四段 大矢 裕美
生野 二段 高島 孝
十江 準特 佐東直哉
菅谷十 会沢 望子
向体 向体
上位 上位
菅谷 四 吉澤 拓人
えびざわ りょうすけ
其所 其所
菅間中二 渡邊 光晟
光中三 中根穂乃花

蓮モ人 花モ人 花モ人
山中人 山中 柴森
緒香 琉生 寧音
宮内 谷賀 佐藤
李真由 咲紀 美優
日野 藤 芹 金子
利恵 谷 未 朋世
高信 針ヶ 崎 村山
美月 那友 貴 梨 姫
佐藤 沼 小 木 鈴
大矢 森 田 村 岡 野
裕美 央 陽 真 衣
愛子 音 仁 美 優
高島 澤 安 高 岡
乃步 莉 空 聖 菜
彩乃 步 空 聖 菜
德永 久 富 藤 廣 川

(初) 小西 弥 涼
(7) 川田 菜々 光 晟
(中二) 渡邊 中根 穂乃 花
(中三) 金野 古川 吉澤 海老澤 良すけ
(五) 準大 紬子 拓人
(四) 吉澤 良すけ
(二) 準九 乃彩 月 みよ
(九) 小幡 稲葉 山岡
(七) いろは 乃彩 月 みよ
(特) 高信 高田 佐東 会沢 望子
(特) 未羽 綾菜 直哉 々子
(準) 十

歌川 五十六段 歌川 輝生	おつづし みいを料理につ	神宿 五十五段 宮内 彩花	おつづし みいを料理につ	曾我 五十四 小澤 康太	おつづし みいを料理につ	菅谷 五十三 田中 美羽	おつづし みいを料理につ	十江 五十二 中澤 寧々	おつづし みいを料理につ	暗峰 五十一 和田 環	おつづし みいを料理につ	桜 五十 山本 さくら	おつづし みいを料理につ	秘 五 宮田 咲穂	席がえで一番前の席になりました	十江 四十八 山形 穂華	席がえで一番前の席になりました	柳 四十七 安江 斗陽
------------------	-----------------	------------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	----------------	-----------------	----------------	-----------------	--------------	-----------------	-----------------	-----------------	----------------

席がえて一番前の席になりました 田崎 朱莉 四重六	席がえて一番前の席になりました 光 四重五段 古川 綱子	席がえて一番前の席になりました 神宿 四重四段 大塚 聖羅	席がえて一番前の席になりました 杏 四重三 山田 有紗	席がえて一番前の席になりました 傳 四重二 叶野 絢桜	席がえて一番前の席になりました 熊本 四重初段 平野 真聖	席がえて一番前の席になりました 大里 四重一 高塚 和奏	席がえて一番前の席になりました 仙心 四重二級 石寺 葵	席がえて一番前の席になりました 百塚 四重三級 山口 結衣	席がえて一番前の席になりました 梓 四重一 小野 頼りこ
--	--	---	---	---	---	--	--	---	--

席がえて一番前の席になりました 神和 四 五 石嶋芽依	水族館でめずらしい魚を見ました あす 三 六 ひ山ななる	水族館でめずらしい魚を見ました 北 三 五 大田万結	水族館でめずらしい魚を見ました 光 三 四 段 菊池ころろ	水族館でめずらしい魚を見ました 主花 三 四 二 三澤心	水族館でめずらしい魚を見ました 翠雲 三 四 二 段 教田瑠子	水族館でめずらしい魚を見ました 七月本 三 四 初 田尻晃征	水族館でめずらしい魚を見ました 香 三 二 段 櫻井梓瑠彩	水族館でめずらしい魚を見ました 仙心 三 三 緋 海沢清ら	水族館でめずらしい魚を見ました 光 三 三 上原史織
---	--	--	---	--	---	--	---	---	--

[illegible][illegible][illegible]

ほのかにも風は吹かざん 花薄 むすぼほ小つ露に濡るも 女御歌子王 大男 二般 三 天野 希美	ほのかにも風は吹かざん 花薄 むすぼほ小つ露に濡るも 女御歌子王 佐原 二一般 池田 春實	ほのかにも風は吹かざん 花薄 むすぼほ小つ露に濡るも 女御歌子王 山口 二一般 安達 真由美	ほのかにも風は吹かざん 花薄 むすぼほ小つ露に濡るも 女御歌子王 塩田 二一般 後藤 鶴 見清例	ほのかにも風は吹かざん 花薄 むすぼほ小つ露に濡るも 女御歌子王 塩田 二一般 五段 後藤 幸子	ほのかにも風は吹かざん 花薄 むすぼほ小つ露に濡るも 女御歌子王 創造 二一般 四段 田辺 由佳	ほのかにも風は吹かざん 花薄 むすぼほ小つ露に濡るも 女御歌子王 瑞田 二一般 三段 小林 太雄	ほのかにも風は吹かざん 花薄 むすぼほ小つ露に濡るも 女御歌子王 大里 二一般 二段 阪本 佳泉	ほのかにも風は吹かざん 花薄 むすぼほ小つ露に濡るも 女御歌子王 中二 二一般 柳渡 小島 華舟
--	---	--	--	--	--	--	--	--

いざ鎌倉 目には角を立てる 尾ひれを付ける 横車を押す 光 中三 特待 長島史余	いざ鎌倉 目に角を立てる 尾ひれを付ける 横車を押す 十江 中三 特待 佐東直哉	いざ鎌倉 目に角を立てる 尾ひれを付ける 横車を押す 東 中一 唐造 野崎 華鈴	いざ鎌倉 目に角を立てる 尾ひれを付ける 横車を押す 栄江 中三 華特 山野辺 天	いざ鎌倉 目に角を立てる 尾ひれを付ける 横車を押す 桜 中二 中三 半澤 青空	いざ鎌倉 目に角を立てる 尾ひれを付ける 横車を押す 常谷 中二 中三 鳴戸 彩乃	いざ鎌倉 目に角を立てる 尾ひれを付ける 横車を押す 仙心 中二 中三 八段 石寺 彩乃	いざ鎌倉 目に角を立てる 尾ひれを付ける 横車を押す 杏 中二 中三 七 芦田 夏実	いざ鎌倉 目に角を立てる 尾ひれを付ける 横車を押す 三雲川 中二 中三 六段 福井 優那	いざ鎌倉 目に角を立てる 尾ひれを付ける 横車を押す 芳王 中一 中二 五 成田 紬
--	--	--	---	--	---	--	--	---	--

尾ひれを付ける 目 ^め に角 ^{かく} を立てる いざ鎌倉 一柳 ^{いちりゅう} 中 ^{なかつ} 中 ^{なかつ} 四 ^よ 中 ^{なかつ} 村 ^{むら} 心 ^{こころ}	尾ひれを付ける 横車 ^{よこぐるま} を押す いざ鎌倉 大阪 ^{おさか} 中 ^{なかつ} 中 ^{なかつ} 三 ^{さん} 段 ^{だん} 高 ^{たか} 尾 ^お 優 ^{ゆう} 希 ^き 布 ^ふ	尾ひれを付ける 目 ^め に角 ^{かく} を立てる いざ鎌倉 羽生 ^{はぶせい} 一 ^{いち} 二 ^に 段 ^{だん} 高 ^{たか} 崎 ^{さき} ゆめ	尾ひれを付ける 目 ^め に角 ^{かく} を立てる いざ鎌倉 古河 ^{こがわ} 中 ^{なかつ} 中 ^{なかつ} 初 ^{はつ} 野 ^の 村 ^{むら} 直 ^{ちく} 美 ^み	尾ひれを付ける 横車 ^{よこぐるま} を押す 重 ^{おも} い 荷 ^に 物を片 ^{ひと} 手で 軽 ^{かろ} 々と持ち上げた 琴 ^{こと} 雲 ^{うん} 六 ^む 神 ^{かみ} 傳 ^{でん} 宮 ^{みや} 内 ^{うち} 希 ^き 綾 ^{あや}	尾ひれを付ける 横車 ^{よこぐるま} を押す 重 ^{おも} い 荷 ^に 物を片 ^{ひと} 手で 軽 ^{かろ} 々と持ち上げた 十 ^{じゅう} 江 ^え 六 ^む 準 ^{じゅん} 特 ^{とく} 宮 ^{みや} 本 ^{ほん} 優 ^{ゆう} 花 ^{はな}	尾ひれを付ける 目 ^め に角 ^{かく} を立てる いざ鎌倉 富 ^{とみ} 谷 ^や 六 ^む 中 ^{なかつ} 十 ^{じゅう} 戸 ^と 晴 ^{はる} 千 ^ち 尋 ^{ひろ}	尾ひれを付ける 目 ^め に角 ^{かく} を立てる いざ鎌倉 王 ^{おう} 花 ^{はな} 六 ^む 中 ^{なかつ} 九 ^く 芳 ^{ほう} 賀 ^が 疏 ^{しよ} 生 ^{せい}	尾ひれを付ける 目 ^め に角 ^{かく} を立てる いざ鎌倉 友 ^{とも} 部 ^ぶ 六 ^む 中 ^{なかつ} 八 ^{はち} 段 ^{だん} 永 ^{えい} 井 ^い 香 ^{かう} 帆 ^ふ	尾ひれを付ける 目 ^め に角 ^{かく} を立てる いざ鎌倉 仙 ^{せん} 心 ^{しん} 六 ^む 中 ^{なかつ} 七 ^{しち} 段 ^{だん} 小 ^{せう} 木 ^{もく} 友 ^{ゆう} 貴 ^き
---	--	---	--	---	---	--	--	---	---

重ヘビい 荷物モノを片手ヒタテで 軽カサ々と持ち上げた 香カ 六ロク 六ロク 六ロク 芹沢峯記	重ヘビい 荷物モノを片手ヒタテで 軽カサ々と持ち上げた 光ミツ 六ロク 五ゴ 五ゴ 福田勝平	重ヘビい 荷物モノを片手ヒタテで 軽カサ々と持ち上げた 品川シナガハ 六ロク 六ロク 四シ 段ダン 大矢 裕美	重ヘビい 荷物モノを片手ヒタテで 軽カサ々と持ち上げた 若王ニギハヤヒ 六ロク 三サン 三サン 古竜 達成	重ヘビい 荷物モノを片手ヒタテで 軽カサ々と持ち上げた 桜サクラ 六ロク 二ニ 高岡美徳	重ヘビい 荷物モノを片手ヒタテで 軽カサ々と持ち上げた 免懷ミヅナリ 六ロク 三サン 初ハツ 宮本 三郎	おおい づし 料理リョウリに 打ヒつ 山崎 和	おおい づし 料理リョウリに 打ヒつ 玉花タマハナ 五ゴ 十ジュウ 九ク 根本 真希	おおい づし 料理リョウリに 打ヒつ 光ミツ 五ゴ 八ハチ 段ダン 橋 実緒	おおい づし 料理リョウリに 打ヒつ 芳主ヨシヌシ 五ゴ 七シチ 柚賀 心花
--	---	---	--	--	---	---	--	--	---

第35回 平成30年 (2018年) 本格の輝き 読売書法展

会期・会場・表彰式

東京展 《第1会場》国立新美術館(東京・六本木) 8月24日(金)～9月2日(日) ※8月28日(火)休館 《第2会場》東京都美術館(東京・上野公園) 8月23日(木)～29日(水) ☆表彰式・祝賀懇親会=8月25日(土) ザ・プリンス パークタワー東京 【区分】茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・富山・石川・山梨・長野・静岡の各都県と海外在住者	関西展 9月5日(水)～9日(日) 《会場》京都市勤業館「みやこめっせ」(京都市・岡崎公園) ☆表彰式・祝賀懇親会=9月8日(土) ホテルグランヴィア京都 【区分】福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山の各府県
中部展 9月26日(水)～10月1日(月) 《会場》愛知県産業労働センター「ウイングあいち」(名古屋市中区) ☆表彰式・祝賀懇親会=9月29日(土) 名古屋観光ホテル 【区分】岐阜・愛知・三重の各県	中国展 10月26日(金)～28日(日) 《会場》広島県立ふくやま産業交流館「ビッグ・ローズ」(福山市御幸町) ☆表彰式・祝賀懇親会=10月26日(金) 福山ニューキャッスルホテル 【区分】鳥取・島根・岡山・広島の各県
東北展 10月31日(水)～11月4日(日) 《第1会場》山形美術館(山形市大手町) 《第2会場》山形県立文芸美術館(山形市七日町) ☆表彰式・祝賀懇親会=10月31日(水) 山形グランドホテル 【区分】青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島の各県	北海道展 11月21日(水)～25日(日) 《会場》札幌市民ギャラリー(札幌市中央区) ☆表彰式・祝賀懇親会=11月24日(土) 札幌パークホテル 【区分】北海道
九州展 12月7日(金)～9日(日) 《会場》福岡国際センター(福岡市博多区) ☆表彰式・祝賀懇親会=12月9日(日) ホテルオークラ福岡 【区分】山口・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄の各県	四国展 12月14日(金)～16日(日) 《会場》サンメッセ香川(高松市林町) ☆表彰式・祝賀懇親会=12月14日(金) JRホテルクレメント高松 【区分】徳島・香川・愛媛・高知の各県

主催 読売新聞社 読売書法会

【出品票の請求】

はがきに姓号、本名、郵便番号、住所、電話番号、生年月日、性別、出品部門(漢字・かな・篆刻・調和体)を明記して下記事務局までご請求下さい。
※締め切り=5月8日(火)

■第35回読売書法展事務局
〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1 読売書法会事務局
TEL: 03-3216-8903 FAX: 03-3216-8977
http://yomiuri-shohokai.com

第35回展特別展示 「読める書への挑戦」

読売書法会創立期の幹部書家ら先達の「漢字かなまじり書」や「調和体」約50点を紹介
会場: 東京展(国立新美術館)、関西展

開館三十周年記念 茨城近代美術の精華Ⅱ 日本芸術院会員五人展

二〇一八年 六月一六日(土)～八月一二日(日)

主催 茨城県近代美術館
後援 茨城県美術展覧会、水戸市、北茨城市、笠間市、ひたちなか市、牛久市、つくば市、朝日新聞水戸総局、茨城新聞社、NHK水戸放送局、産経新聞社水戸支局、東京新聞水戸支局、日本経済新聞社水戸支局、毎日新聞水戸支局、読売新聞水戸支局

協賛 株式会社常陽銀行

開館時間 午前九時三〇分～午後五時
(入場は午後四時三〇分まで)

休館日 毎週月曜日 ※ただし七月一六日(月祝)は開館、七月一七日(火)休館

入場料 一般 九八〇(八五〇)円
七〇才以上 四九〇(四二〇)円
高大生 七二〇(六〇〇)円
小中生 三六〇(二四〇)円

※(一)内は二〇名以上の団体料金 ※障害者手帳・指定難病特定医療費受給者証等をお持ちの方は無料、七月二五日(火)は七〇才以上の方無料、高校生以下は土曜日のみ無料(夏休み期間を除く) ※茨城県立の美術館(近代美術館、天心記念五浦美術館、陶芸美術館)主催の展覧会で一年間に何回でもご利用いただける共通年間パスポート(一般三〇九〇円/高大生二〇六〇円/小中生一〇三〇円)を各美術館にて販売中



第四十七回 茨城文化団体連合美術展

平成三十年六月三日(日)～十日(日)

・県民文化センター

※第五科「書」の一部の会員出品にて開催 ※入場無料

平成三十年度茨城県移動展覧会

「茨城の美術セレクション」

標記展覧会は、茨城県文化振興条例を背景に、県からの委託事業として、本会が実施運営する展覧会でございます。県内三地区で開催し、広く県民が優れた美術を鑑賞できる機会を提供するとともに、芸術家の発表の場を提供する目的で開催されます。出品依頼作品は、第一〇回記念「現代茨城作家美術展」からの選抜作品となります。

(県美術館展覧会会長 能島征二)

・平成三〇年七月八日(日)～二十二日(日) ※月曜休館(但し、十六日海の日は開館、翌日休館)

・茨城県陶芸美術館展示

※工芸美術・書・写真・デザインの展示

(書) 出品者 星 弘道、吉澤 鐵之、中村 伸夫
吉澤 劉石、鈴木 赫鳳、吉澤 石琥
鶴見 香枝、山内 香鶴、山内 白華
秋山 和也、井上 光基、川野邊泰雲
佐川 峰章、鈴木 宗美、辻 敬齋
吉澤 衡石、吉澤 太雅

第四十五回「日本の書展茨城展」奨励賞受賞者

◆吉澤 太雅(次年度茨城書壇代表作家推挙)
◆辻 和香、笹島 節子、永藤 窓風
徳重 篤鵬、川崎 一葦、西野 香葉
田畑 大舟
以上八名

平成三十年度「改組 新第五回展」

新会員二十四名、新準会員二十五名、新会友八十名(書)

平成三十年度・新会員

近藤 浩平、陣 軍陽、野田 杏苑
日賀野 琢、柳 濤雪、山口 耕雲
山本 大悦
稲村 龍谷、大橋 洋之、柴原 月穂
鈴木 赫鳳、平形 精逸、森上 光月
吉澤 石琥
井上 光基、川野邊泰雲
新会友 吉澤有岐子

今月の編入及び編入昇格者(敬称略)

一般(毛) 中島芹香→初段へ

「吉澤石琥 近作小品展」図録



A4変形 一五二ページ
作品オールカラー(作品一六四点)
一冊 四,〇〇〇円(税込)(送料別途)

(申し込み先) 〒311-0105 茨城県那珂市菅谷三三八七-1
研究書道 臨池会
近作小品展係

硬筆部

平成三十年度春期

新師範感想



(柳春)
柿沼春奈

この度は、権威ある臨池会の硬筆部師範位に御推挙頂きまして、誠に有難うございました。これも偏に主幹吉澤石琥先生をはじめ、審査にあたられた諸先生方のご厚情の賜と心より御礼申し上げます。また、長年にわたり、常に温かく熱心に御指導をして下さいました大久保萬里先生のお陰と深く感謝致しております。

学生の頃より続けてきた硬筆ですが、中学校の教員となり仕事が忙しく、なかなか試験に挑戦できずにおりました。何度も挫折しそうになりながらも良き師、家族の支えがあり、こまめやうてられました。現在は小学校に異動しましたが、これからも教員として子どもたちの良き手本となる文字を書くことができる様、努力精進して参りたいと思います。

末筆ながら、臨池会の益々の御発展を心より祈念申し上げ、御礼の言葉とさせていただきます。



元木美保

この度は、権威ある臨池会硬筆部師範位に御推挙頂きまして、誠に有難うございました。これも偏に主幹吉澤石琥先生を始め、審査にあたられた諸先生方のご厚情の賜と心より御礼申し上げます。

息子が始めるのをきっかけに、小学生時代以来の再スタートとなりましたが、書に向かう時間は、とても楽しく、勢子涼香先生の温かく熱心な御指導のお陰もあり、ここまで来れたことを大変感謝しております。

まだまだ力不足ではございますが、日々精進して参りますので、今後とも御指導の程、宜しくお願い申し上げます。

末筆ながら、臨池会の益々の御発展を心よりお祈り申し上げ、御礼の言葉とさせていただきます。



(樹香)
山 口 利 子

この度は、権威ある臨池会の硬筆部師範位に御推挙頂きまして、誠に有難うございました。こうして師範位を頂戴できましたのも、主幹吉澤石琥先生をはじめ、審査にあたられた諸先生方のご厚情の賜と心よりお礼申し上げます。これからは先生の教えを胸に、より一層精進して参る所存でございます。

今後とも変わらぬ御指導、御鞭撻を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

末筆ながら、臨池会の益々の御発展を心より祈念申し上げ、御礼の言葉とさせていただきます。

(文責・編集部)

七月号硬筆部課題予告

幼年	お	り	ひ	め
小一年	ブラジル	カナダ	オーストラリア	
小二年	かん字力テストで百点をとりました			
小三年	わたしの家は一丁目の交番近くです			
小四年	母は給食センターで働き始めました			
小五年	全員参加を前提として話を進めます			
小六年	看護師になるために専門学校へ行く			
中学生	鹿を追う者は山を見ず			

船頭多くして船山に登る

『書展』特別編入制度

日展、読売展、毎日展、サンケイ、東京書作展他、公募団体展、各地の県展において、役員クラス、あるいは入選入賞した経験のある方。

- ①書歴(証明出来るもののコピー。ただし、A4サイズの複写にて)入選・入選回数、役職名を記入のこと。数枚可。
- ②作品(小画箋半切以上のもの。内容は随意)一点
- ③返信用ハガキ(返信用ハガキ宛名は本人自筆にて)一枚

右①②③を揃え、例月競書等と別送し、封筒に書展特別編入制度作品と明記して下さい。出品期日は何時でもよろしいです。

※原則として返却いたしません。
・役職、入選、入賞に応じて、本会の師範格、準師範以下の相当段位へ特別編入させて頂きます。

(未会員のみの可也)
・編入審査料 五、〇〇〇円

新入 特別編入試験規定

新入会員で、相当段級に編入を希望する者は、本試験を受験のこと。本試験を受けない新入会員は、実力の如何にかかわらず、全て九級以下に編入します。

◆漢字部(吾心在太古)(半紙)

A部 右課題を楷行草の三体三枚出品のこと。当選者は六段以下の実力相当級に編入します。
B部 課題は楷書で一枚出品のこと。当選者は一級以下実力相当級に編入します。

◆仮名部(半紙)

A部 「いろは」四十八字全部を適当に連綿して、作品一枚出品のこと。当選者は漢字A部と同じ。
B部 「いろは」最初の十二字を適当に連綿して、作品一枚出品のこと。当選者は漢字B部と同じ。

◆受験料

漢字部仮名部共 A部 四、〇〇〇円
B部 二、〇〇〇円

◆注意事項

- 受験作品は、例月競書等と別送し、封筒に編入試験清書と明記のこと。
- 出品期日は何時でもよい。
- 成績通知用ハガキを同封のこと。折返し編入級位を通知します。
- 電話での編入級位の照会には応じません。

●吉澤石琥直接指導案内

一般部

- (木曜日) 臨池会本部会館
※午前10時より12時まで
※午後2時より4時まで
- (金曜日) 大洋堂ビル(水戸市・駅近く)
※午前10時より12時まで
※午後7時より9時まで
- ★各教室月二回の稽古です。
- ★通信指導は別途です。
- ★詳細を知りたい方は臨池会本部までお問い合わせ下さい。

●吉澤石琥直接指導案内

一般部

- (月曜日) 臨池会本部会館
※午後7時半より9時半まで
- (金曜日) 臨池会本部会館
※午前10時より12時まで
※午後2時より4時まで
- ★月二回の稽古です。
- ★初心者を対象とした教室です。

学生部

- (金曜日) 臨池会本部会館
※午後4時より9時まで
- (土曜日) 臨池会本部会館
※午前9時より12時まで
※午後1時より6時まで
- ★各曜日月三回の稽古です。
- ★詳細を知りたい方は本部までお問い合わせ下さい。

競書出品の注意

- 毎月三十日必着々切です（二月・十二月のみ二十八日）
- 漢字条幅、規定、随意の段級は共通です。
- 一般部・学生部共に清書には必ず支部名・段級・氏名を記入し、脇に「調」と朱書きして下さい。段級未記入の場合は段級不明として処理いたします。
- 新しく出品される方は「新」とし、しばらく休んでいた方は元の段級で出品して下さい。
- 着色してある紙や、特殊の大きさの紙は使用しないで下さい。写真版に出来ません。
- 競書作品の中に誌代及び添削作品を入れないで下さい。
- 出品券は図の様に必ず作品のウラから貼って下さい。
- 成績表で、①印は賞状のみ、②印は賞状及び昇級、③印は昇級のみとなります。
- 月例競書作品として出品された作品は、いかなる場合であっても返却いたしません。

初段以上の方

1級・新入

●昇試・競書の送り先

那珂市菅谷358712
書道研究臨池会御中
競書作品在中

入会と誌代について

- 「臨池」の会員になるには、住所、氏名を明記し誌代半年分以上を現金書留か郵便振替を利用し、お申し込みになれば誰でも会員となります。
- 誌代：一カ月 六〇〇円、半年 三、六〇〇円、一カ年 七、二〇〇円
- ※一人一冊購読が原則です。
- 送金の際は必ず、新入、継続、何月号より何冊、と明記して下さい。
- 前納誌代は如何なる場合と雖も他に充当又返金致しかねますからお含みおき下さい。
- 誌代切れの時は雑誌発送の折封筒の表に朱で通知致しますからすぐ御送金下さい。
- 個人会員の場合、誌代切れの時点で発送を中止致します。退会や送金の遅れる場合はその旨御一報下さい。

支部規定

- 支部は正会員十名に達すれば設置する事が出来ます。
- 支部新設の場合、支部長はその支部所在地、支部名をお知らせ下さい。
- 支部長は誌代の徴収、「臨池」の配布、段級の確認、清書の発送に責任を持って下さい。
- 部数の変更は毎月十日までにお知らせ下さい。
- 支部において、二ヶ月誌代未納の場合は、送本を中止させて頂きます。
- 支部設立の場合は、臨池会本部まで詳細支部規定を御請求下さい。支部内の経営については、当本部は一切関与致しません。

賞状請求

- 競書で③印になった方には賞状を差し上げます。希望者は何月号、何部、何学年、何級、氏名を明記し、二〇〇円切手を貼って返送用封筒A4（自分の住所・氏名を記入の事）を同封の上、本部賞状係へ御請求下さい。四枚以上の場合は一四〇円切手を貼って下さい。

肉筆手本及び添削規定

- 肉筆手本・添削（小誌月例競書課題・昇試のみ）を希望する方は左の料金を添え、郵送等にて返送用封筒（切手を貼り自分宛の住所・氏名を記入）を同封して、臨池会本部までお送り下さい。
- 細字部は肉筆手本・添削不可。表側に「添削依頼」「手本依頼」と記して下さい。（本会の会員のみ添削は毎月五日より十日までの期間です。）
- 添削手数料：半紙 一枚 五〇〇円、半切 一枚 一、〇〇〇円
- 肉筆手本：半紙（六字迄・和歌一首迄） 一枚 一、〇〇〇円、半切（二十八字迄・和歌一首迄） 一枚 五、〇〇〇円

認定証交付について

昇段又は昇級された方、或は現段級の認定証左記により交付致します。（漢字、かな・硬筆にかぎりです）

- ◆一般部師範・師格位（特製） 五、〇〇〇円
- ◆学生部 準師範以下 二、〇〇〇円
- ◆送料（簡代共） 一、〇〇〇円
- ◆御希望の方は、部門別段位、ならびに姓号、昇格年月明記の上、料金及び送料をそえて臨池会認定証係へ申し込んで下さい。

臨池会本部の営業時間・電話・FAX

- 平日 9:30～16:00
- 土曜 9:30～12:00
- 定休日 火曜日、日曜日、祝祭日
- 電話 〇二九（二九五）二〇二二
- FAX 〇二九（二九五）二〇〇九
- ◆小誌に関する電話での問い合わせ等は、右記の時間内とさせて頂きます。

第四十五回「日本の書展茨城展」

18奨励賞

漢字、仮名で一体感

西野 香葉さん（ひたちなか）



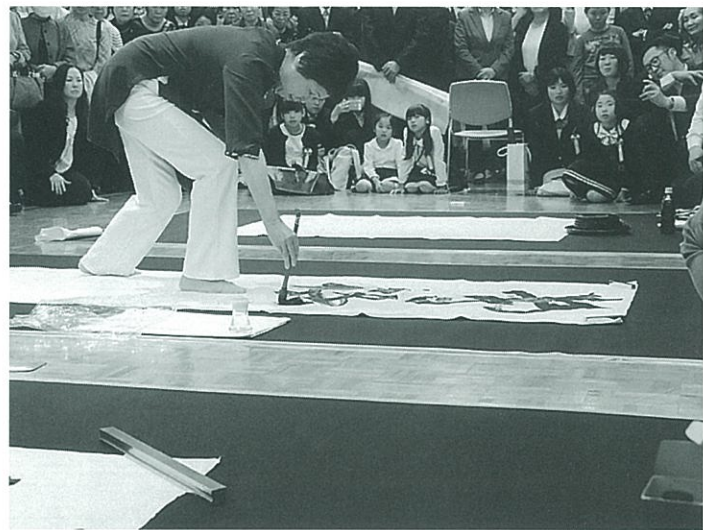
初受賞作は李白の早春の詩。温かみとリズム感のある作品に仕上げた。淡い墨を利用して一文字一文字を充実させ、空間の美しさを表現。安定した漢字と仮名で

（四月十八日付「茨城新聞」より転載）



○第四十五回「日本の書展茨城展」が四月十四日より十九日まで茨城県民文化センターにて開催されました。

本展のハイライトは何と言っても初日の役員による席上揮毫にあります。今回は小沼典弘、小野江華、中島鸞山の三先生方によるもので、紅一点、本会の小野江華氏は季節を感じて頂く様に「鶯語花舞」を選文し、用紙は桜の花びらが舞う様にピンクに染め上げての入念な力の入れ様。



二月よりこの為に幾度となく練習をし、大字と小字のコラボを皆さんに観て頂く様に考えての構成で見事な出来映え。一番悩んだのは揮毫時の恰好だったろうと思います。選文と用紙が決定し、桜のピンクに對して、緑のチャイナドレスに白を組み合わせ、（春告鳥）ウグイス、メジロ、を彷彿させる様な爽やかさと清々しさが感じられる好感度の恰好は更に会場を沸かせてくれました。

緑、白、ピンク、黒と見事な色の組み合わせと、季節に似合った選文にての揮毫は上々。傍らで固唾を呑む感じで心配そうだったお母様も娘の責務終了、大成功で安堵に満ちたことだったと思います。お疲れ様でした。

○来年二月に小誌が八〇〇号となり、翌三月は父鐵石三十三回忌の回顧展、五月には新元号発布、再来年二月は第六十回書作院記念展、そして、東京オリンピック・パラリンピック開催と、実にここ二二年間は超多忙の年となりそうです。何事も早目早目に計画をして、先へ先へと前進あるのみかと思ひますので、是非会員皆様のご協力ご支援を何卒よろしくお願い致します。

○早いもので今年も三分の一を過ぎてしまいました。春期試験も切られ一寸休息というところでしょうが、読売展出品の方々は作品の仕上げに一段と拍車を掛けての制作の日々かと存じます。時間を上手に使って佳き作品を制作したいものです。（石琥記）

次号(七月号)予告

觀濤海 門秋 月夜の 浜辺 光る 青葉 東の 空の まつ 里せり
 静居 燕坐 花火 工場 公用 車 火山

小 二 年
小 小

小 四 年
小 三

小 六 年
小 五

中 二 三 年
中 学 一 年

一般規定初段以上
一般規定一級以下

※幼年部は「三」です。

◆ 誌 代 ◆

1ヶ月 600円(送料・税込)
 半年 3,600円(送料・税込)
 1ヶ年 7,200円(送料・税込)
 振替 00140-1-56403

月刊書道誌「臨池」

電話 029(295)2022 FAX 029(295)2009

※来月は事異です。



学臨部六月課題(六月三十日〆切) 世殊 (王羲之・蘭亭序)

氏名

平成三十年五月二十日印刷・発行
 編集 (主幹) 吉澤成 (石塘)
 発行人
 本部 〒三二一〇一〇五 茨城県那珂市菅谷三三八七二
 月刊書道誌「臨池」
 電話 〇二九(二九五)二〇三二
 定休日/火曜日・日曜日・
 祝祭日・土曜日午後
 (只し、競書作〆切日が火曜
 日・休日・祝日の場合は、
 翌日が定休日となります。)

※小、中学生が出品出来る。
 ※作品には支部名、学年、氏名を明記し、
 学臨の出品券を貼ること。